

○事務局 ただいまから、第2回目の高石市立幼稚園再編等検討委員会を開催させていただきたいと思います。

まず、開会に先立ちまして、前回の資料の差しかえと、それからト田先生からご指摘のあった資料のほうの説明をさせていただきたいと思います。

まず、市内主要3駅の駅勢圏及び高石市立中学校校区と書いた図面があると思うんですが、前回、第1回目の資料としてお配りさせていただいた中の7ページにこういった資料をつけておったんですけれども、実は中学校区のラインに間違いがございました。それで、こちらのほうを差しかえということなんですけれども、間違っている箇所を申し上げますと、今これお示ししている正と書いてある図面、高師浜駅と大きな字があって、その下に高石駅と高石幼稚園と書いてあるところがあると思います。その間に、真っすぐ東から西に線が入っていると思うんですけれども、前回お示しさせていただいた線が、この高石幼稚園の北側、高師浜駅と書いたこの字の北側のほうに東西の線があったと思います。その辺の誤りと、それから今申し上げたその線を東のほう、東南側にずっと見ていただきましたら、西取石という交差点があるんですけれども、元の資料につきましては西取石のところから南側に、国道26号線のところにラインを入れておったわけですが、このラインにつきましても国道26号線じゃなしに、JR阪和線が中学校の境界になっておりますので、訂正の差しかえのほうよろしく願いいたします。

それで、前の図面ですと、高石幼稚園の場所が高南中学校の区域に入っていたと思います。新しい正のほうの図面でしたら、高石幼稚園というのは高石中学校の校区というふうに位置的にはなるんですが、実は高石幼稚園の通園区域というのは高石小学校と同一でございまして、その区域の中で高石中学校へ行く区域と高南中学校へ行く区域と両方に分かれてございます。駅勢圏ですとか小学校区でいいますと、高石幼稚園も位置的には高石中学校の区域になっておりますけれども、校区としては高南中学校に含めて間違いはないかというふうに考えております。その点ちょっとおわびして訂正させていただきます。

それとA4の横のホッチキスどめ2枚のペーパーが、前回の会議の中でト田委員のほうから、幼稚園での預かり保育の状況について調査をせよというのが出ていたので、これ1枚目が私立幼稚園の状況、2枚目が公立幼稚園の状況でございまして、1枚目の私立幼稚園につきましては、市内の幼児の方が多く通っておられる周辺の市町村を含めまして12園調査いたしました。その結果、すべての幼稚園で預かり保育が実施されていると、その中でも早朝の預かり保育というのを実施されている園が12園中4園ございました。

それから、公立幼稚園のほうでございまして、2枚目でございまして、こちらのほう

は泉州地区、堺市を含めた9市の状況でございます。預かり保育につきましては早朝保育、延長保育でございますが、延長保育については9市のうち4市で実施してございます。そのうち早朝保育についても泉大津市さん1市で実施されているといった状況になってございます。ご参照いただけたらありがたいです。

それでは、検討委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づきまして、大方委員長に議長をお願いいたしたいと思っております。それでは、大方委員長、進行のほうよろしくお願いいたします。

○大方委員長 それでは、進めさせていただきたいと思っております。

そうしましたら、きょうは高石市立幼稚園の再編基準（案）ということで、そのことについてお話をすることなので、すみません、事務局、今、この資料をいただいているんですけども、ご説明いただけますでしょうか。

○事務局 それでは、資料の1ページを開いていただけますでしょうか。

まず1ページ目でございますが、こちらのほうには21年11月にいただきました幼児教育のあり方検討委員会からの報告の内容を項目別に列記させていただいております。

市立幼稚園及び幼児教育のあり方ということで説明させていただいております。

順番に申し上げますと、まず1番目といたしまして、幼稚園といいますのは、教育の場であるということ。そういった中で、教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保する必要があるということでございます。

2番目といたしまして、現在の公立幼稚園の設置状況のままでは、公立幼稚園の小規模化がますます進むことが懸念されるということです。

3つ目といたしまして、幼児期の教育につきましては、生涯にわたる人格形成の基礎を培うために極めて重要であるということでございます。

4番目といたしまして、少子化によりまして、地域において子どもが多数で遊ぶ姿というのはほとんど見られなくなっている状況でございます。社会性が習得しにくい現状、状況になっているということでございます。

それから5番目といたしまして、集団保育の必要性というものを考えた場合でございますが、1学級当たりの人数といいますのが重要なことでありまして、規模が余りにも大き過ぎる、または小さ過ぎる場合については、その効果が必ずしも期待できないということでございます。

それから6番目といたしまして、学級の数、学級数につきましても同年齢、同学年におきまして、単学級よりも複数学級が望ましいというふうに考えられております。

次、7番目といたしまして、幼稚園での教育活動につきましては、学級間の競争意識であり

ますとか、対抗意識といったものが子どもたちの意欲を喚起し、大きな教育効果が期待できる側面があるということです。

それから8番目といたしまして、適切な集団の中で自分が所属する集団をより高めていく経験というものが可能となるように複数学級の設置が望ましいということでございます。

それから9番目といたしまして、教職員につきましても一定の幼稚園規模のもと、連携、あるいは協力し、指導に当たることが必要になっているということが、この9点について、あり方の報告書の中で言われたものです。

次、2枚目を開けていただけますでしょうか。

あり方の報告書の中で、市立幼稚園の適性規模・適正配置につきまして、掲載させていただいております。

まず、適正規模というのはどんなものかということでございますが、4歳児、5歳児ともに1クラスの下限はおおむね20名程度とし、各年齢において複数学級となることが望ましいということが言われております。

こういった適正な規模、適正な園児数、あるいは学級数を確保するためには、どうすべきかということでございますが、公立幼稚園でありますとか、私立幼稚園の地域的な偏在でありますとか、施設の耐震性などの状況を考慮するとともに、市民の選択の幅を狭めないように配慮しながら、再編によって公立幼稚園の規模の適性化を図る必要があるというふうに言われております。

それから、家庭のニーズにも配慮した取り組みを導入することによりまして、教育上適切な集団活動が実施できる教育環境を整備する必要があるというふうに言われております。

次に、適正な配置についてでございますが、その中で、再編に当たって配慮すべき事項ということで4点ほど整理させていただいております。

まず1番目としましては、園児、幼児の方の生活エリアについて配慮をすべきだということです。

2番目が、園児の幼稚園までの通園時間について配慮しなさいと。

3番目、同じような内容になりますが、園児が通園の際、疲労を感じさせない程度の通園距離にすべきだということ。

それから4番目としまして、駅勢圏でありますとか、中学校区を中心としたまちづくりの考え方に配慮して適正配置を考えなさいといったことが報告されてございます。

次に3ページ目でございますが、こういったあり方検討委員会からの報告を踏まえまして、

実際に今後、公立幼稚園を再編するに当たって、一定の基準を設けた中で再編を図っていくべきであろうと考えています。その再編の基準といたしまして、こういったものを基準にするかという項目を整理させていただいております。

まず1番としまして、1クラスの下限につきましては、おおむね20名程度にすべきかどうかということです。これにつきましては、支援を要する園児増加への対応というのにも考える必要があるということでございます。

2番目としまして、各年齢において複数学級であるべきかどうかということです。

3番目といたしまして、就園率によって一定の線引きをすべきかどうかということですが、前回の資料でも説明させていただきましたとおり、幼稚園の定員に対する就園率の説明をさせていただきましたが、こちら書いてございますのは、定員に対する就園率だけではなく、その各幼稚園の通園区域内の幼児人口に対する就園率等について考慮することが必要ではないかと考えてございます。

それから4番目としまして、建物の建築年数を考慮すべきではないかということです。税法上の耐用年数で申し上げますと、鉄筋コンクリートづくりですと学校は47年という規定がございます。それに近づくような施設が多うございますけれども、そういった建築年数というのも考慮すべきではないかということです。

5番目としまして、敷地面積を考慮すべきかどうか。これは平成25年度に法施行が予定されております「子ども・子育て新システム」を見据えてということでございますので、その法律が施行された場合には、幼稚園、保育所が総合施設という形になって、そのときには保育施設ですとか、調理施設とかいうものが必要になってくるのかなと考えられます。そういったことも踏まえて、敷地面積についても一定考慮すべきではないかというふうに考えてございます。

それから6番目としまして、幼稚園、小学校、幼稚園と義務教育との連携を考慮すべきだということございまして、義務教育への子どもの発達及び学びの連続性というのを確保する必要があるというふうに盛んに言われてございます。そういったことも考慮すべきではないかということでございます。

それから7番目が、耐震の1次診断の結果でございます。これも前回、第1回の資料でお示しさせていただきましたが、この結果を踏まえて、それも考慮すべきかどうかということでございます。

それから適正な配置、適正な幼稚園の配置をするためには基準をどこに置けばいいのかということでございますけれども、これは、あり方の報告書をいただいておりますとおり、駅勢圏で

ありますとか、中学校区、こういったものに配慮してバランスのとれた配置にすることが必要ではないかというふうに考えてございます。

9番目としまして、周辺環境や跡地利用につきましても、再編の基準として一定考慮する必要があるんじゃないかというふうに考えてございます。

10番目としまして、今申しあげました各項目すべての総合的な評価によって再編というのを考えていくべきではないかというふうに考えてございます。ただその項目、これをすべて採用するかどうか、絞り込みでありますとか、例えば点数を付与する場合には、その配点方法をどうするべきかというようなことも、一定検討が必要なのではないかなというふうに考えてございます。

資料の説明については以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございました。

今の1ページ、2ページは、高石市の幼児教育のあり方検討委員会の報告書の内容ですよね。原則はこれになるということは、前回のときには出ていたと思うんですけども、ただ、もう一回、再編するに当たって一つ一つ確認をしながら、それで決めていかないといけない部分も当然あると思いますので、再編基準ということで、その報告書に基づいて項目を挙げると、この10項目かなというのが事務局から出た案と思ったらいいわけですかね。

○事務局 はい。

○大方委員長 はい。そういうことなんでございますが、それに対して何かご質問がまずありましたら。

よろしいですか。

どうぞ。

○西條委員 1ページのところで質問ということで、ちょっと教えてほしいんですけども、確認も含めた、「現在の設置状況のままでは」というのがありますね、現在設置状況というのは、具体的にはどの辺までを包括しているのかなと。

○大方委員長 事務局お願いいたします。

○事務局 現在の設置状況のままではといいますのは、21年の時点では、公立幼稚園6園ございました。そのうち1園は、今年度当初から民営化し、認定こども園に移行いたしましたけれども、そういった数のこともございますでしょうし、こういったサービスのことも踏まえた中で、こういった報告をいただいているのかなというふうに理解してございます。

○大方委員長 よろしいでしょうか。

○西條委員 もう一点、よろしいですか。

4番目の「少子化によって、地域において子どもが多人数で遊ぶ姿はほとんど見られなくなり、社会性が修得しにくい状況になっている」というところは、前の検討委員会、あり方のところ辺の、どの辺でそれが出てきているのかなと思うんです。10ページあたりなのかなとか。

○事務局 あり方の報告書の6ページ。

○西條委員 6ページか。ちょっと教えてください。

○事務局 6ページの2の2、市立幼稚園の適性規模、適正配置についての項目の中段のちょっと上なんですけれども。

○西條委員 わかりました。

○事務局 5から右の段の。

○西條委員 はい、わかりました。ありがとうございます。

○大方委員長 この1から9というのが、そのままどこかに入っている部分じゃなくて、抜き取りみたいな感じになっているわけですね。

○事務局 はい。

○大方委員長 だから日本語として作文が変な感じ、何かおっしゃったように、現在のこういう条文ってないと思うので、1、2、3、4という、何か要約するには変な感じ、違和感が多分持たれているので、こういうものが報告書にあるわけではなく、抜き書きをして、教育委員会で、今、必要な部分だけを抜き取ってこられたというふうにご理解いただきたいと思います。そういうことですね。

○事務局 はい。申しわけございません。

○大方委員長 ご指摘ありがとうございます。

という認識に立っての3ページということですか。

そうしましたら、またご質問があれば、その都度に聞いていただければいいんですが、1から10、3ページのところに書いていただいているので、まず、今5つ幼稚園があるわけですね、何らかの形で再編するということになるわけですから、5が5のままであるということは、簡単に言っていないわけで、5が4になるのか、3になるのか、2になるのか、1になるのか、そのときに何を基準に考えるかということが、この会議の趣旨やと思いますので、そのときに、この1から10というのは、それぞれに意味を持って書かれていると思いますので、1つでも意味がある場合もあるでしょうし、全体的なバランスを見なければいけないかもしれないしというように、ちょっと1つずつ事実を確認しながら、最終的にどういう方向で考えるかというの

が、きょうの趣旨としてご意見をちょうだいできればいいのかなというふうに思います。

まず、そういう形で進めさせてもらってよろしいですかね。よろしゅうございますか。

ですから、まず、今幾つに決めるという前に、1個ずつの事実を確認させてもらえたらと思います。

まず、1つ目の1クラスの下限はおおむね20名ということで、逆にいうと、この20名程度とすると、もともと、前、園長先生からもご質問があつて、前の報告書に基づくと20名を遵守するというので事務局からも返答があつたかと思うんですが、これだけをまず見た場合に、では、該当するのはこの5つのうち、どこになるのでしょうか。

今のまま、ただし、もう一つ考えなければいけないのは、再編することによって子どもさんが流動することもありますから、今の5歳、次の新5歳児は今の4がそのときに上がるんでしょうけれども、次の新入園児に関しましては、もしかしたら移動してふえるということもあるかもしれない。その辺の含みを、この間の園長先生の言葉を、帰って考えたんですけども、どういうふうに読み取るかという問題、現実の、それこそ現代のところで切るのか、もしかしたらだれか、なくなることによって、公立がいいという方が行かれるということもあるのかなというのは、やや含みはあるのかという気はいたします。

ただ、今のままの、これがさっきの話じゃない、続くというふうに思ったときに、今のこの20名程度ということで考えたときに、20名を下っているというのはどこになるのかというと、まず、どれから見ればいいですかね。まず5つ園がある。高石幼稚園さん……、ちょっと事務局に答えてもらいましょうかね。

じゃ20名、これに関して、生き残っていけるって失礼な言い方ですけども、該当するところと該当しないところ、事実だけを教えてください。

○事務局 お答えします。

平成23年5月1日現在で申し上げますと、1クラス20名を上回っておりますのは、高陽幼稚園の5歳児、羽衣幼稚園も5歳児、北幼稚園は4歳、5歳児、加茂幼稚園は4歳、5歳児、それ以外の高石の4歳、5歳、それから高陽の4歳、羽衣の4歳につきましては20名を下回っております。

それから複数学級ということで申し上げますと、加茂幼稚園以外すべての学年で1クラス、単学級になってございます。

以上でございます。

○大方委員長 ありがとう。今2のほうも言うてくれはったんですね。

○事務局 はい、すみません。失礼しました。

○大方委員長 いいえ、結構です。

まず1でいえば、そうすると、高石幼稚園さんに関しては4歳、5歳とも11名、12名いうことですよ。

○事務局 はい、そうです。

○大方委員長 限りなくちょっと人数に遠い数字になってしまっているんですかね。高陽さんは4歳が18。

○事務局 はい。

○大方委員長 18だから、含みはあるかもしれない、20人にあと2人なので、もしかしたら移動してくるかもしれないということになるかもしれません。一応5歳は25名ということですね。羽衣さんも19ですか。

○事務局 4歳児。

○大方委員長 4歳、19ですから、1人ぐらい移動してくるかもしれないという含みを残しつつ、5歳は27ですね。北のほうは一応22、21ということで、一応20はクリアしていると。加茂幼稚園さんに関しては、もう50人とか39人で、むしろ4歳のほうが多いような感じになっているかなと思いますので、数だけを見れば、加茂幼稚園さんは安定しているような感じですね。

2つ目の、今教育委員会言ってくださったように、複数学級ということに関しては、この加茂幼稚園さんだけがクリアしているので、複数学級と考えたときには加茂幼稚園以外の全部却下されてしまうことになってしまう。そうすると1園という選択が、再編1、4つ却下みたいな形になる可能性も、その数字だけで見れば出てくるということですよ。

そういうことも含めて、ちょっと議論をしなければいけないかなと。このままいったら1園にしていいのかという議論も当然出てきますし、じゃ、4つ、含みを残してというと、全部含んでいると、どこまで含むかとか、いろんなことが考えられると思います。

ということイメージしながら次に行きましょう。

就園率というのは、いかがなものなんでしょうか。すみません、教育委員会よろしいでしょうか。

○事務局 はい。前回の会議の中でもお示しさせていただきましたように、まず、市の条例の中にも定まっております定員に対する就園率でございますが、4、5歳児合わせて申し上げます。

高石幼稚園が16.4%、それから羽衣幼稚園が32.9%、高陽幼稚園が30.7%、北幼稚園が



30.7%、加茂幼稚園が52.0%でございます。

以上です。

○大方委員長 ありがとうございます。

そうすると、就園率だけ見れば、加茂幼稚園が52.0%とおっしゃいましたかね、だから1番。その次が羽衣幼稚園さんになるんですかね。その次が北と高陽が一緒ですかね、それで高石に最後になったと、16.4%だから、かなり就園率がちょっと悪いような感じですかね。

それと、ちょっと米印で書いてくださっているんですが、園児の就園率については、定数に対する就園率だけでなく通園区域内の幼児人口も考慮することということで、要はその区域にどれだけ子どもさんがいらっしゃるかということによって、そこにいる子どもが、みんなその公立に行っているのかどうかという割り出しやと思うんですが、それはいかがなものでしょうか。

○事務局 幼稚園の区域内に住んでおられる幼児人口に対する就園の状況、率でございますけれども、順番に申し上げます。

まず、高石幼稚園でございますが16.7%、次に羽衣幼稚園でございますが、こちらが30.9%、それから高陽幼稚園でございますが、こちらは18.1%、北幼稚園が24.0%、最後に加茂幼稚園が23.2%でございます。

以上でございます。

○大方委員長 ありがとうございます。

そしたらまた数字が変わってきて、加茂幼稚園さんは、さっき就園率としたらいいけれども、子どもが多い割にはやや行ってない子もいる。逆に羽衣幼稚園は割と横ばいですね、同数みたいな感じですよ、割とその地域の方は公立行っている率が高いのかなという感じで、あと北と高陽に関しては、むしろ子どもさんの割に行っている人が少ないと、さっきの数字より悪くなっていると。高石は残念ながらどっちも余りよくない数字というような感じで、それが横ばいみたいな感じなんですけれども。

ということも、ちょっとまた参考にイメージしておいていただけたらと思います。

その次、建築年数ということであれば、いかがなんでしょうか。

○事務局 では、順番に申し上げます。

○大方委員長 さっき、47年というのが法律としたら限度とおっしゃっていましたね。

○事務局 税法上、償却資産税で計算した上での耐用年数、一般的な耐用年数ですけれども、それが鉄筋コンクリートだと47年という基準がございます。

○大方委員長 はい、わかりました。

○事務局 では、幼稚園ごとに築年数申し上げます。

高石幼稚園が、これは管理教室1棟でございますが38年、羽衣幼稚園、これも管理教室が1棟だけでございますが、こちらも38年、高陽幼稚園、こちらは管理教室棟と遊戯室と2棟ございまして、管理教室棟のほうは築30年、遊戯室のほうも、これも30年でございます。それから北幼稚園でございますが、こちらも管理教室棟と保育棟が2棟ございます。管理教室棟のほうは築41年、それから保育棟のほうは築17年でございます。それから加茂幼稚園でございますが、こちらも保育室棟と管理棟と2棟ございまして、保育室棟のほうは、こちらは38年、管理棟のほうにつきましても同じく38年でございます。

以上です。

○大方委員長 ということは、ほとんど38年ということは、加茂幼稚園と羽衣さんと高石さんが38年で一緒なんですね。そうですね。やや新しいのが高陽さんで30年ということですかね。一番古い管理棟が、北が41年と、遊戯室は新しいけれども管理棟のほうは41年と一番古いということなんですね。

○事務局 はい。

○大方委員長 その次、敷地面積ということなんです、いかがなものなんでしょうか。お願いします。

○事務局 建物の敷地と運動場を合わせた敷地、全体の面積を申し上げます。

まず、高石幼稚園が1,380平米、次に羽衣幼稚園が1,485平米、高陽幼稚園が3,199平米、北幼稚園が1,696平米、加茂幼稚園が3,632平米でございます。

以上でございます。

○大方委員長 ありがとうございます。

ということは、加茂が一番広いですね。その次が、高陽さんが広いということですか。羽衣さんと北は同じような感じですかね、やや北のほうが広がったですかね。一番狭いのが高石ということになるんですかね。

○事務局 はい。

○大方委員長 はい、わかりました。

次の、幼小連携ということになっているんですけれども、隣接に小学校がひっついているところというのは、どこになるんでしょうか。

○事務局 この中で申し上げますと、羽衣幼稚園が羽衣小学校と隣接してございます。

○大方委員長 なるほど。隣ですか。

○事務局 隣です。

○大方委員長 同じ敷地内にある。

○事務局 同じ敷地の中に入っています。

○大方委員長 はい。あとはみんな……。

○事務局 あとは加茂幼稚園につきましては、道路を挟んで隣接という感じでございますが、ほかは若干、小学校との距離があるということでございます。

○大方委員長 そうですか。わかりました。

それから、この間から問題になっている次の耐震1次診断結果というのは、この報告書のときよりもリアリティを持ってきているんですけども。

○事務局 申し上げます。

高石幼稚園が、これ耐震1次診断の結果でございますが、0.61。

○大方委員長 すみません、幾つ以上あればいいんですか。

○事務局 一般的には、耐震1次診断の場合は0.8以上あれば大規模な震度6強もしくは7弱程度の地震によっても倒壊する危険性は少ないと、小さいというふうに言われているのが0.8以上になる。0.8以上なければ危険性があるということございまして、0.3を下回れば危険性が高いというふうに言われてございます。

高石幼稚園が0.61でございます。高陽幼稚園でございますが、管理教室棟のほうが0.43、遊戯室、これは耐震の対象外という認識をしてございますが、こちらは1.06、それから羽衣幼稚園が、管理教室棟0.51になります。それから北幼稚園のほうが、管理教室棟が0.40、一方の保育棟につきましては、昭和56年の建築基準法改正後の建物でございますので、いわゆる新耐震基準ということですので、これは耐震化の対象外でございます。それから加茂幼稚園でございますが、保育室棟が0.31、管理棟が0.52ということでございます。

以上でございます。

○大方委員長 今聞くに、高陽の遊戯室以外は全部0.8以下。あした、きょう地震が来たらみんな倒壊するというような状態。

○事務局 危険性はございます。

○大方委員長 特に0.3の加茂ですか、保育棟0.3ですよ、さっき0.3下ったら限りなく危ないということなので、普通公立は避難所になるのかなと思っていたんですけども、とても避難所になりにくい感じですよ。ざっと見ていてちょっと気になって、それもあって非公開に

きょうしてもらったのもありますけれども。

これは、再編されたときには建て直しになる、補強工事になる。

○事務局 小学校と同じような手法でいきますと、基本的には補強工事というふうになると思います。その耐震改修工事に当たりましては、2次診断というのを実施するわけでございますけれども、そういった中で、例えばコンクリートの強度が著しく低いですとか、ほかに補強工事だけは済まないような要因が出てきた場合には、小学校でも高陽小学校というところで1棟改築いたしましたけれども、そういうことも考えられると思います。

○大方委員長 どこが残っても、とても恐ろしい。はい、わかりました。

では、適正に配置するための基準をどこに置くのかという、その次ですが、駅とか、あるいは中学校区とかですね、駅勢圏というんですか、これ。中学校区ですね、駅に近いとか、それから中学校区。校区で今中学校区だとどうなりますか。この地図見たらいいんですよ。

○事務局 はい。

○大方委員長 入ってなかったですか、これみんな持っているので、ごめんなさいね、先生とだけなかった。ありますか。校区は出ていましたね、最初に何か差しかえてくれと言われて。

この丸が校区ですよ。

○事務局 この丸といいますのは、駅からの駅勢圏ということで、半径800メートルということを表示させていただいています。この実線の太いライン、これが中学校区の境界でございます。一番北側の部分が高石中学校の校区でございます。この中には羽衣幼稚園と北幼稚園があります。

○大方委員長 2つですね。

○事務局 はい。中学校区で申し上げますと、その位置的には高石幼稚園というのも高石中学校の校区には入ってございますけれども、冒頭申し上げましたとおり、高石幼稚園の園区、通園区域といいますのは高石中学校と高南中の両方に分かれてございまして、いわゆる高南中学校の校区に含めていいということに考えてございまして、高南中学校の校区につきましても高陽幼稚園と高石幼稚園、2園があるのかなというふうに考えてございます。それから東側の取石中学校区でございますが、こちらのほうには加茂幼稚園、1園がございまして。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

真ん中に羽衣駅、高石駅、トミキ駅ですか。

○事務局 トノギと読みます。

○大方委員長 富木駅ですか。

では、その次に行きましょう。周辺環境、跡地利用。

跡地利用というのはちょっとわからないので、余りここで議論は、委員長としてはしたくないんですけども、最終的にはあってもいいのかもしれないですけども、まだ、まず幼稚園のあり方を考えて、その後かなと思うんですけども、皆さんご意見があれば言っていただきたいと思います。

周辺環境というのは、どんな状態でしょうか。お願いします。

○事務局 じゃ、幼稚園ごとに簡単に周辺環境についてご説明させていただきます。

まず高石幼稚園でございますが、周辺道路が非常に狭隘な住宅地の中に立地してございまして、開発の関係もございまして、避難経路等も確保しがたいというような状況になってございます。ただし、高石駅に近接してございますので、便利な場所ではあるというふうに考えてございます。

高陽幼稚園でございますが、若干鉄道駅からは離れてございますし、河川に隣接しているというような場所で、市の一番南西の端のほうに位置してございます。

それから羽衣幼稚園でございますが、こちらの幼稚園につきましては、羽衣駅に近くて便利な場所であるということでございます。場所的には南海本線、鉄道に隣接している場所に位置してございます。

それから北幼稚園でございますが、現在築造と申しますか、改修途中でありますけれども、新村北線と申します市道が整備される予定、幼稚園の南側にそういった市道が設置される予定になってございまして、交通アクセスについては、車等の移動については便利な場所ではあるというふうに考えてございます。

それから加茂幼稚園でございますが、加茂幼稚園は市の中心部に位置しているということでございまして、周辺道路も整備されているという状況で、好立地なところにあるというふうに考えてございます。

以上でございます。

○大方委員長 はい、ありがとうございます。

最後は、各項目の総合評価により再編を行うべきかというのがあるので、意見が出る中で、この部分を皆さん、これは別に今言えないですもんね。皆さんのご意見をちょうだいしながら最終的にまとまっていけばいいと思っていますけれども。

特に、この幼稚園に支援を要する子どもさんがすごく多いとか、そういうことというのはあるのでしょうか。全体的にどこもしんどくなっているのは一緒だし、公立幼稚園が受けてくださっているのが民間より多いんじゃないかとは思いますが。

年度によって……、いいですよ、いいですよ。

○事務局 すみません。

○大方委員長 年度によっても当然変わるとは思うんですけども、どんどん支援を要する子どもさんがふえて、民間よりも公立が受けてくださっているのかなという感じはあるので、参考になるかなと思って聞いただけですので、結構でございます。

そして、もう一つ前の、2ページのところの報告書のところの適正配置にもあったように、ある程度、子どもの生活エリアとか、子どもさんですから通園時間のことであるとか、それから疲労を感じさせない程度の通園距離とか、中学校区とか、まちづくりとしてどうしていくかとかいうことも含めて、ある程度長期的なことも考えて決めていかなければいけないのかなと思います。

きょうは非公開ですから、どうぞ忌憚なくご意見を言っていただければいいのかなと思っています。

今ざっと数字的に、今言っていたのを、すみません、事務局、次回のときに、ちょっとまとめておいていただけたら、もうちょっと具体的に決めていかなければいけないときに参考になると思いますので、一覧表を次のときには皆さんにお配りいただけたらありがたいかなと思います。よろしくお願いします。

○事務局 はい。

○大方委員長 考え方としたら、5は、なしなわけです。再編しなければいけない状況で、痛みを伴ってくるわけですので、4か3か2か1ということになって、5はちょっとあり得ないと思うので、5でした、終わりというわけにはいかないと思うんですけども、4、3、2、1ですね。

さっきの、一番最初の1クラスの下限20名と複数学級ということであれば、それだけを見れば、この加茂幼稚園さんだけが残って、あとは全滅ということになってしまいます。ですから、ようするに1も含めて考えるのか、やっぱりいろんな歩いていく距離とか校区とか、前の再編会議でもかなり議論されてまとまっていると思いますので、それから、歩いていかれたりする方の距離もありますので、余り遠いと大変かなというのもありますので、それぞれにご意見をいただけたらと。

はい、どうぞ。

○中西委員 今伺いして、正直初めて5園から必ず減るという会議だというのを、今初めて私はわかりました。そういうことかなというのはわかってはいたんですけども、これは意見としてですけども、もちろん保護者からの意見は、すべて5園残してほしいというのはたくさんお話をいただきました。それはもうどこもそうだと思います。これを1園、2園減らさないといけない、必ず減らさないといけないというのは、ちょっと趣旨と違うかわからないですけども、現状で5園のまま3年保育にし、園児を集めるといいますか、ふやすというような方法では全く取り入れないんですかね。もうそれは必ず減ってしまうということですか。

○大方委員長 私が決めることじゃないんですけども、私はコーディネーターなので。

ただ、多分、前のもともと検討委員会の報告書で、ここには今出ていないですけども、この高石市だけじゃないんですけども、要は全部残るほうが個人的には私もいいと思います。公立は公立で、民間は民間で。

ただ、公立の場合は民間と違うのは、民間の場合はたとえ子どもが1人になっても、園長先生がそれこそ無給で別に構へんとか、職員もみんなただでもいいと、私のつくった園よという、民間だったらそういうこともあり得ますよね。その個人が決めたらいいいわけですよ。ただ公立の場合は、園長先生も含めて転勤もあるように、一応税金で賄われているという前提があるので、恐らくこの再編になってきているということも含めて、国全体がお金がないというのがあって、国からの補助金がどんどんカットされているというのがあって、そもそも、そこからきていると思います。高石市がどうこうということではなくて、もう国のお金がない。そしてその次に、要は地方交付税という各都道府県におりてくるお金がない。さらに市町村におりてくるお金がない。そしたらその税金の使い方としたときに、どうしても公立はいい意味でベテラン先生がたくさんいらっしゃるわけです。ですからその先生方の給料、あしたから半分にするとかいうわけにいかないですよ。私立の場合は月謝ですから、子どもの数掛ける月謝で多分賄われていると思いますし、若い先生が多いのもある面で給料が低く、私たちもそうですね、民間ですから。国立大学じゃないので、そういう面では私立というのは園長先生や理事長先生が給料を決めますし、公立というのは、いい意味で公共性があるわけで、その分、先生方は長く働けるし、ベテランが多いし、専門性も高いという利点があるわけですよ。

ただ、今ちょっとここでわからないですが、参考ならば、次のときにどれぐらい赤字かというのがわかれば、もうちょっと私たち共有理解できるのかなと思うんですけども、恐らく高石市が今赤字状態で、赤字か黒字か知りませんよ、わからないんですけども、いろんな中で

どこにお金を使っていくかという議論からでてきているのがもともとであろうと思うので、ここでそれを私らが決める権利はだれもないので、ここは再編をしてくださいと言われている会なので、どう再編するかということを次に決めていかなければいけないと思います。

○菊野委員 関連する質問で、減らす4、3、2、1とか減らすことで、基準はやっぱりどれにいくのかなど。恐らく財政的なことで4、3、2、1に減らしていくということもあるし、あと教育的な意義で減らすという目的もあり、どっちなのか、2つなのか、どっちかなと思ったんですけども、今話聞いていると、やっぱり財政的なことも含めて、教育的になれば、複数学級、集団ということそういうことを含めてという、そういう2つの基準で数が決まっていくという話になるんですかね。

○大方委員長 それを決めるのが、きょうのこの会議やと思います。そのための……

○菊野委員 何を基準に減らすのかなど、すごくちょっと気になって。

○大方委員長 それを、むしろここで決めなあかんのではないかと。

○中谷委員 その教育的な意義からということできせていただくんですけども、前にもお話しさせていただきました。ここに支援を要する園児増加への対応ということも書かれていますけれども、本当にこのとおりで、以前のあり方検討委員会、21年に報告がありましたけれども、それから本当にふえているんですね、障がい名はつかないまでも、やっぱり、みんなの中で先生の言葉を聞けない子どもさんがすごくふえている。だから、それを先生が一人一人対応をしていく、それがすごく手をとられますね。そういう子どもさんがやっぱり多いということは、少人数で手厚く、そういうふうに子どもが自分の思ったことを伝えたり、困ったことを知らせたりという、そういうコミュニケーションの力が弱いので、そういうのをつけていくことが、今、幼稚園ですごく求められているんだと思うんですよ。

ですので、複数学級や下限がおおむね20名と言われたら、私たち1人で担任持っているので、とても手が回らないんです。こちらでも複数で競争意識や対抗意識が子どもたちの意欲を喚起し、大きな教育効果が期待できる側面があると、ここにバーンと、こんなふうに書かれていますけれども、今こういうところにまだ子ども行かないです、4歳なんか特に。自分のことをどう相手に伝えるか、お友達とどうコミュニケーションとるかが精いっぱい、5歳でもまだそういう子どもさんがいるので、何かやっぱりそれよりも少人数で、みんなきっちり子どもたちにそれを伝えたり、みんな友達同士、あの子はこうやなというふうに認め合う気持ちとか、思いやる気持ちとか、まずそういうのを持たないと、これから社会、大きな集団に入っていくところではともしんどいと思うんですね。



ですので、ここは本当に財政難のことだけで、だから、私たちは余計に財政難だけで切られるというのは本当にもう腹立たしいんです。

私立のことはわかりませんが、私立から何人かの方、やっぱり公立幼稚園へと行って変わってきてくださっていますし、それは合う、合わない、公立の幼稚園でも合う、合わないはきっとあると思うんですけれども、やっぱり、たくさんの方が私立から変わってきてくださっているというふうなところから見ても、やっぱり公立幼稚園がいいと思ってくださっている方が多いし、それが保護者のニーズということをすごく言えると思うんです。

ですので、そこは、こんなふうな再編の案で書いていただいているのは、すごくうれしいなと思うんですけれども、ここは十分に配慮していただきたい、考慮していただきたい点だと思います。

それと、加茂幼稚園が人数多いというのは、清高校区と取石校区の子どもが加茂幼稚園に来ているんです。清高幼稚園と取石幼稚園がもう廃園になりましたので、私立になりましたので来ているからなんですけれども、本当に取石校区は校区が広くて、取石校区の端のほうから加茂幼稚園まで来てくださっている方は、下にもまだ子どもさんがおられるので歩いてきてはるんです。そしたら30分はかかるんです。暑い日も寒い日も風のある日もそうやって30分かけて来てくださっているので、ちょうどここに子どもの通える距離、疲労しない距離と書いてくださっていましたけれども、そういうことから考えると、そういう二の舞はさせたくないなと思います。

統廃合したら人数はふえるかもしれませんが、子どもに絶対しわ寄せいくのは、もう取石や清高幼稚園のことでよくわかっておりますし、取石校区の保護者は、取石幼稚園が民間になるとときには、もう随分市役所のほうと意見を交換して、市役所のほうでも取石校区の保護者はどんなふうを考えてられるかもよくわかっていられると思うので、現状は無理でも、こういうところ、子どものことを思っただけの再編ということ、何かやっぱり履き違えているんじゃないかなと、財政難ということだけで子どもの教育を切り捨てないでいただきたいというふうに切に思います。

○大方委員長 先生どうぞ。

○西條委員 この会議は、再編の会議やということで来させてもらったということで考えさせてもろうてまして、その辺のところ、いや、そうじゃないというこのあり方のところまで戻ることになったら、またちょっとこれはしんどくなってくるのかなという気もしているんです。その辺の中で知恵出し合って、一番いい形を考えていくしかないのかなというところは

思っています。そんな中で、ちょっと2点ぐらい。

まず1点目なんですけれども、適正規模というのは、小学校やったら12から18とか、法律上決まっています、やっぱりあると思うんです。その適正規模というのは、子どもたちの成長をやっていく中では、ある程度小学校でも必要やと思っていますし、下限も、20のところがちょっとええんかどうか、その辺ややこしいんです。小学校でも下限というのはあります。下限のところ辺、今35人学級、1年 **不明** まだ多過ぎるけれども、やっぱりその辺のところは、子どもは切磋琢磨していく中では、あるん違うかな。だから財政面だけじゃなくて、先ほどちょっと話あった教育的なものも大事にして、この規模というのは考えていかなあかんのん違うかなというふうには思っています。

その規模になったとき、さっきいいました設置状況のところ辺まで話があるのかも含めて絡んでくるので、ちょっとややこしくなってくるのかなと思っていますけれども、その辺も含めて、次話もしていかなあかんのかなということと、それからもう一点、僕自身がちょっとわからへんで、この駅勢圏というのは、結構ここで重要視されて出てくるみたいなんですけれども、僕のほうがちょっと勉強足らんなんですけれども、僕が保護者からしたら幼稚園へ通う、自分の家から幼稚園までのほうがすごく大事というか何かと思うし、小学校とか中学校とか、よくつながりとか、そういうのは大事やなと思うんやけれども、この駅勢圏というのは、教えてほしいんです。どういう形でこの辺がみたい。

○事務局 市としまして、こういった主要三駅を中心に再開発というのを進めてきています。そういったまちづくりを念頭に置いた、そういうことも考えて再編を検討すべきですよというようなことがあり方の報告書で言われているというふうに解釈をしています。

○大方委員長 ありがとうございます。よろしいですか。

○西條委員 はい、結構です。

○大方委員長 すみません、保護者代表で来られていて、ここの委員会の意味が、もし十分把握されないまま代表で来られたとしたら、大変ちょっと申しわけないなという感じはするんですけれども、今校長先生おっしゃったようなことで、もちろんお金がすべてとかいうわけではもちろんないし、ただ、一応ここに、ほかのメンバーの方はそのつもりで、もうそれも既に議論し尽くされた上で、子どもの適性とか少子化にどう向き合っていくとかいうことも全部議論された上で適正配置ということを考えましょうということで、さらにこの会が始まったというふうに理解されていると思いますので、もし、その辺のところからイメージが違っていたら、非常に代表で来られてしんどいなと思うんですけれども、イメージは大丈夫ですか。

○中西委員 それは、個人的に減らすんであろうというふうには思っただけではありますが、それは、正直、その保護者にははっきりそう伝えてはないんです。その減らす……

○大方委員長 保護者の方々にはまだ言わないでしょう、だってどうなるかわからない状態なので、言うわけないと思います。

○中西委員 そうですね。私はここのこの席に来させていただくために、やはり自分の幼稚園を初め、ほかの4園の方のお母さんの意見を聞かないといけないと思いました。今、現在どういうふうに思われているか。この2年前にこの委員会が立ち上がったんですよね。

○大方委員長 いえ、違います、今。

○中西委員 あり方についてという。

○大方委員長 それは幼児教育のあり方、さっきの報告書の、それはできて終わって、報告書になっているので、この会は今ですね。

○中西委員 その時期から公立がひょっとしてなくなるのという話は、本当うわさですけども、そういう話は母親の間ではありました。どこがなくなるのとか、統合されるのというような本当うわさです。いざ、この委員会ができて、私ぽんと参加することになって、何を発言するのかというのもわからないですし、ほかの幼稚園の状況も全くわからない状態で意見を求められても、何を答えていいかわからなかったもので、私はすべての幼稚園の会長さん、園長先生にも了解を得て、現在、公立幼稚園、今通われている幼稚園について思うこと何でも結構ですということでアンケートをとらせていただいたんです。それを、アンケートをとるといことはどういうことだというふうになったときに、園を減らされるかもしれないみたいなことを私の口から言うと、すごいやっぱり今でも反発は確かにありましたけれども、この委員会を開かれた理由、どうしてという声も、すごいあるんですね。私もどう答えていいかわからないんですよ、正直ね。そのアンケートをとらせていただいたときに、今後、子どもの人数が減っているんで、このまま幼稚園が存続できるかどうかというような話し合いをするんですみたいなことを、お話させていただいてアンケートをとらせていただいたんです。

それで、減ってしまうんですかという質問もたくさんいただいたんですけども、私はその場で答えられなかったんです。絶対減るなんてわからないですし、だれもそんなこと望んでいませんし、もう幼稚園の保護者の中で一番は、もう今の現状で3年保育にしてほしいというのが一番多かったんですね。それはもうアンケートにもすごいたくさんいただいていて、それが一番なんです。その話を私はどうやって持っていこうかということが一番最初に浮かんでいるんです。でも、この席に座ったときに、もう必ず減るということと言われて、えっ、ちょ

っとどうしていいかわからないのが本音です。

実際、何園減らせば財政的に高石市がやっていけるのかというのも、実際、お母さんから聞かれましたし、私そんなこと全然わかりませんし、4園か3園か2園か1園とおっしゃいましたけれども、教育的なこと、財政的なことというふうに2つお話がありまして、財政的なことも1園減らしたら高石市がやっていけるのかとか、そういうこと全く疑問がいっぱいなんです、私、この委員会ついていけるかどうかははっきりわかりませんし。

ですので、この5園から減らされるというのは、ちょっと私も今知ったので、ちょっと整理しないといけないなと思うんですけれども。

○事務局 第1回目の会議でも、この今回の検討委員会の設置の趣旨を説明させていただいたんですが、あくまで平成21年につくられたあり方検討委員会という中で、高石市の幼児教育、それについてどうなっていくかということではいろんな報告をいただきました。それについてお渡ししていると思うんですけれども、その中で、財政的なことには触れてないと思いますけれども、幼稚園の教育上望ましい集団活動が実施できる教育環境を確保する必要があるということで、その適切な教育環境を確保するためには、再編によって公立幼稚園の規模の適正化を図る必要がありますよという報告をもらっているんですね。その報告を踏まえまして、実際にどういう形で、今残っている5園をどう再編していくのかということについて、こちらのほうから出させていただく計画等についてご意見、ご提言をいただきたいという趣旨の検討委員会なんです。

○中西委員 それもすごい短い間ですよ。すぐ1週間前に言われ、1週間後にこの席座って、その考える余裕もありませんし、ただ断れない状況ですよ。もちろん出席しないといけない大事な会議だと思いますけれども、全く考える時間ありませんでしたし、こんな大事なことを保護者私1人だけで二百何人もの保護者の代表で、そんな意見も言えませんし、どうやって進めていっていいかはっきりいってわかりません。

○事務局 検討委員会の委員さんということですので、検討委員会の中でいろいろ議論していただいた結果を、採決いただくことになると思うんですけれども、そういった段階、今おっしゃっておられるような意見を述べていただくこともできますし、採決の時点でお考え、態度をお示しされたらいいかなというふうに思いますけれども。

○中西委員 必ず減らさないといけないんですね、結局は。そういうことですよ。

○事務局 あり方検討委員会の報告という再編によって、適正化を図る必要がありますよというそういった提言を踏まえての、今回の検討委員会の立ち上げですので、再編をどうしていく

かということをご検討いただく会議になりますので。

○大方委員長 先ほど校長先生おっしゃったように、これを、もう一回揺るぎ直す問題ではなくて、その責任が保護者の方に入るわけではなくて、もう既にほかの会議とかでいろんなところで議論をされてきた上で、ここで子どもたち育てるときに何が一番いいかということの中での提言、それベストかどうかは別として、教育的配慮も含めてというのが前回の、この会の設置の趣旨かなと思って、多分みんな聞いていたんじゃないかなと思うんですけども。

だから、全部 **不明** になるかだれもわからないので、わからないんですけども、それも。じゃ、10年後に何がいいかって、これもだれもわからないんですけども、今の時点では、とりあえずその提言を受けて、この中では、じゃ、この5つの中でどう再編したらいいかということを考えるのが私たちのこの会の設置の趣旨として、それぞれの委員さんは引き受けて、私もですけどね。その上でそう思っていたので、数字を言ってもらったりして、教育的な配慮の部分と前の提言とあわせて。数字だけ言ったら1個になってしまうし、どうしようという話をしかけたところです。

保護者という立場、委員さんというか保護者の立場になられてしまうので、とてもそれは苦しいと思うので、それもちよっとあったので、この間非公開と言ったのも、もしかして、十分わかっていらっしゃらなかったらしんどいんじゃないかなと思ったのでちよっと……

○中西委員 わかりません。正直わかりません。

○大方委員長 それちよっと若干心配したので非公開にして、ここで言いたいことを言ってもらうほうが、言いやすいかなと思ってねというようなこともあったんです。地震のことも、耐震もすごく気になったので、いきなりわあとかになったら、みんな心配されることもあるので、勝手にうわさだけが歩いていくので、もう既に何かそういう状態であるように。

それと、そのアンケートも個人的におとりになるのは、私から、だれも何も委員会として依頼しているわけではないので、それをどうするかとかいうことは、今は、この5つをどうするかという再編するということなので、それを踏まえてご意見言っただくのはいいんですけども、その結果をここで採択してどうこうということではないので、それは一応終わった段階としてスタートしているのです。

よろしいでしょうか。

○中西委員 はい。

○大方委員長 時間もだんだん押し迫ってきたので、子どもさん預けていらっしゃるので、余り遅くなったらいけないと思うんですけども。すみません、消化不良みたいな感じなんです

けれども、ほかの方々も一応わかって来られている方もいらっしゃるので、みんな、それぞれ貴重なお時間だと思いますので。

ほかにご意見ございますか。

この20名というふうになっているのも、35名でしたか、小学校のことが基準になって、その半分が大体十七、八というところで20名と。十七、八じゃ少ないから20名という数字になっているんじゃないかなと思うんですけども、35名を半分に割って複数学級にすると考えたときに最低18ですよ。でも18よりやや多めの20名という形になっているのかなと思いますけれども。だから18ぐらいというのは35名、小学校に合わせると18ぐらいまではいいんじゃないかなと、これは個人的な意見ですけども。

○西條委員 訂正を1つだけしますと、小学校1年生は今35人ですけども、全体ではまだ40人学級、その半分だと……

○大方委員長 じゃ、それで20名ですね、40人学級のね。

まあ、今の1年生に合わせたら18名から20名という、含みを持ったとしてもそこまでです。それは、勝手にだれかが数字を決めているわけじゃなくて、一応義務教育の小学校とかも含めた数字だと思いますので。

○菊野委員 きれいごとみたいなことを言うんですけども、僕、これ数減らすという話になったときに、何か減らすとかすごくネガティブな話ですよ。僕らやっぱり、それこそ一応、それぞれ幼稚園に対していろいろ思いを持っている方が多いと思うんですよ。

だから、その結果として、減らしたってやっぱり教育的にプラスになる形の、例えば、今まで数少ない子どもやったけれどもクラスがふえることで、いわゆる子どもの発達にプラスになるとか、やっぱりそこを僕ら持っておかなあかんと思うんです、幾ら結果がどうなろうとね。

だから、僕、今思うのは、大体、こういうときは大体マイナスのことあっても絶対プラスもあるべきやと思っているんです。数の面ではマイナスになったって、質の面でプラスになるようなことを考えていかんと、これをやっけて、何か数減らすということが目的になってしまうんじゃないかと、やっぱりさっき言った財政もあるけれども、教育的な面で、何かこんなような形にしてみたいなというのを僕、思いとして思っているんです。

だから、話しするとき、その辺のこともできたら話したいと思うし、子どもにとって、やっぱり子どもが一番大事だから、子どもにとって何をすべきかということだと思うんです。その辺のことをちょっと含めて、僕は考えていきたいなと思っているんです。それがちょっと今ちょっと何か……。

○大方委員長 やっぱり発展的解消やないとね。

○菊野委員 うん。ちょっとね、じゃないと。

○大方委員長 より公立の先生が集結して、より質の高いものに、専門性が、先生おっしゃった、しんどい子が多いだけに正規の方がやっぱりスクラム組んでいい教育をしていただいて、やっぱり、さすが公立やというのがね。何かばらばらになっていると何か点、点、点で、何かしょんぼり、しょんぼり、しょんぼりじゃなくて、集まることで活気が出たらいいと思います。

○菊野委員 だから、例えば、こんなことあれですよ、極端な言い方ですよ、例えば1になったとしますやん、今度はクラスがたくさんあって、先生がいっぱいおって、それでみんな一緒にやっていけるというプラス面もあると思うんですよ。別にそれをすべきとは思っているんじゃないですよ。そういうこともあるし、やっぱり、そこにはプラスの面を見つけるというか、プラス面を持っていったりとかしていかないと、やって、何やこれ、だんだんネガティブな形になるのは僕だって余り望まないし、せっかくやるからには楽しいこととか、いいことがあるべきやと思ったりするし、そういう形で僕は再編についてはちょっと思っているんですけども。

○ト田委員 よろしいですか。

○大方委員長 はい、どうぞ。

○ト田委員 その意味でいえば、再編基準で、3ページのところに10項目をあれしていただいていますけれども、例えばその1から5とか7のあたりですよ、というところを、これ、どれもかなり大事なことであるんですね。1、2というのは、もしかしたら別かもしれないですけども、ただ就園率のことであったりとか、築年数ということであったりということというのを、どれも非常に大事なことでありますけれども、そちらから先に議論をしてしまうということやってしまうと、じゃ、将来的に、例えば高石市として、その幼稚園教育と幼児教育をどうするのか、就学前の教育をどうするのか、特に今かなり大幅なシステムの変化が見込まれているということを考えると、また幼稚園、保育所という今までの枠組みの中で、もう一度、その再編もしないといけないような状況も含めて考えないといけないような状況でもあると思うんです。

その中で、特に先ほど副委員長も言われたように、子どもにとって何が一番いいのか、特に高石の幼児教育とか、就学前の教育としてどういう姿をかいて、それが高石市の教育全体としてどういう姿を描かれているのかというところの議論が先にあった上で、じゃ、その中で最終的な判断のところ、例えば人数のことであったり、就園率のことであったりということ判

断をしていかないと、そっちの数字から入ってしまうと、本当にネガティブな議論になってしまうかもしれない。

もしかしたら、私ももともと現場におりましたので、幼稚園の。クラスが複数になることで、例えば1人の子に、だれか加配という形で1人つくというのは難しいかもしれないけれども、幾つかクラスがある中で1人をつけるというようなことの可能性はあるのか、ないのかというような、そのあたりの可能性も含めて見ていかないといけないと思うんですね。

恐らく、例えばいろんな形でアンケートをとられたりという形で、公立幼稚園のよさというところというのは、多分、保護者の方から今たくさん集まってこられるだろうと、そこの中で、今聞こえてくる公立幼稚園のよさがどういうふうに伸びていくのか、でも同時に、今公立幼稚園に子どもさんが通っていない保護者の人たちが公立幼稚園に対して、実は望んでおられるという潜在的なニーズもあるかもしれない。今おられる方というのは、やっぱり今の公立幼稚園の形が好きで入れておられる。今入れておられない方、もしかしたら違うところを見ておられるかもしれないというところの両方を重ね合せながら考えないと、ちょっといい議論にはなっていないのかなということも思いますので、そのあたりを踏まえた大きなビジョンから入ったほうが、ちょっと再編の基準をどれを優先すべきかというのは、かなり難しい議論なのかなというふうに思います。

○西條委員 よろしいですか。

○大方委員長 はい、校長先生。

○西條委員 それを受けてみたいなどころがあるんですけども、公立の小学校でもいいんですけども、私立と違うところは何かなと幼稚園も思いましたら、やっぱり一つは地域、やっぱり地域の中の学校という形で、うちら見守り隊の人らがいろんなことをやってくれていますし、協力していますけれども、近くに私立ありますけれども、逆立ちしてもできへんですわ。絶対やっぱり、その地域の中でやっているというところ、協力的にやっているという、それは大事にせなあかんと、幼稚園でもそうやと思います。

もう一方、幼・小・中、これ今、昔小中9年間やったけれども、今幼稚園も入れて縦の系列というんですか、ここのいろんな取り組みとか、協力とか何とかというのは、これはやっぱり僕、公立のよさやし、先生方も今度うちへ研修も来るしという形でやっていく、地域というその横のあれと縦、その辺のところはよさとしてきちっと大事にしていって、うたいませんかというところ辺、その公立のよさというのを僕は物すごく感じますので、そこは、大事にしていかなあかんのかなと思います。



○中谷委員 いいですか。

○大方委員長 はい、どうぞ。

○中谷委員 いろいろやっぱり保護者の顔を見て教師と話し合える、子どもの問題とかもちゃんとリアルタイムでちゃんとできるというところ、本当にいいと言ってくさっています。ベテランの教師も多いです。子育て終わった教師もおりますし、そういうところで、核家族ですので、保護者は。そういうところで育児の問題とか、悩みとか、そういうのもすごく相談してくださって、相談していただけるぐらい信頼していただいていると、私たちは自負しているんですけども、そういうところは公立のいいところだと思います。

いろいろおけいことか、英語とか教えていません。水泳とかも教えていませんけれども、その時期、必要だと思えば、平仮名書けるようにちょっと支えたり、プールなんかでも、スイミングに行かなくても、もう泳げなかった子を泳がせたり、そういうのも先生たち、跳び箱やら、音楽にしたって、やっぱりそういうのは私立には負けないぐらいの私たち技術持って、それもやっぱり子どもとの信頼関係の上でできることですので、そういうところは公立の先生は技量あると思っています。

そういう公立幼稚園のよさで、先ほどおっしゃっていましたがけれども、公立幼稚園になぜ保護者通わせないかというところ、よく聞くんですけども、公立幼稚園に3歳児保育がないからと、今やっぱり保護者のニーズは3歳児保育なんです。手元でできるだけ子どもを見たいという保護者は本当に少数はおられますけれども、本当に少数です。やっぱり3歳から自我が目覚めたときから集団教育に入れてしっかりさせていきたい。かかわりも少ないですしね、子どもも。そういうところがニーズですので、そのニーズを公立幼稚園満たしていないというところで、やっぱり3歳に行かれています。でも4歳になったら公立へ戻ってきますという保護者もいらっしゃいますし、その辺で保護者は通ってくる。

だから、3歳児保育と、この再編は別な問題とおっしゃっていたんですけども、公立幼稚園のよさをアピールするためにも、やっぱり3歳児保育も含めて再編を考えていただきたいなと思うんです。4歳、5歳、2年間だけで小学校上がるよりは、3年かけてゆっくりと、そういう子どもたちの育ちをしっかりしたものにして小学校に上げていくほうが、よりよく生活できる子どもになると私たち思ってるんですけども。

○大方委員長 さっき先生、加茂のほうかふえたとおっしゃってましたよね。

○中谷委員 はい。

○大方委員長 ふえたのは、取石のところ、清高幼稚園がなくなって、その分、今度加茂幼稚

園が子どもがふえたという、それはいい意味で発展的ですよ、やっぱり公立行きたい人がそっちに流れたということですか。

○中谷委員 そうですけれども、お気の毒ですね、遠いのです。まだおけいことかないときは、帰ってからも遊べたりしますけれども、遠いと遊びに行きにくかったり、本当にそういうところでは、地域といえども地域じゃないのですよね、ある意味。加茂幼稚園に通っているけれども、地域は取石校区やったりしますので、そういうところで統廃合となると、そういう問題も出てくるのは確かです。清高小学校区からは加茂幼稚園に25名ですかね、25名通ってきていただいていますし、取石校区からも14名、92名のうち清高からは25名、取石校区からは14名通ってきてくださっています。ありがたいのはありがたいんですけども、こういう **不明** くださって。

○大方委員長 やっぱり加茂は、子どもさんがふえた分、さっきの副委員長の話で、活気があって、複数学級になって。

○中谷委員 はい。それは本当に活気があります。去年は35名で1クラスだったんです、年少組が。でもやっぱり人数が多くても1クラスということが、先ほど反しますけれども、対抗意識とまではいきませんが、やっぱり先生の切磋琢磨という点からいけば、ちょっとしんどい面が確かにありますし、1人の担任で35名を見る、園長やらフリーも補佐しますけれども、そういうところでは確かにしんどい面はあります。ことしは取石からも5歳児で入ってきてくれましたので、2組になれて、ちょうど19名、20名か、そういうふうになったので、もう本当にぱっと見たら、子どもは全部つかめて、それで先生も2人なので、お互いに協力したり、切磋琢磨して刺激し合ったり、子ども同士がまず刺激をもらえて、頑張れますので。それはやはり複数というのは、本当は必要だとは思いますが。

○大方委員長 そうですよ。教育的配慮というのはそういう意味でしょうね、先生がおっしゃっているようなこと。

○菊野委員 そうそう。極端にいうたら、1園になったら、いや、これよかったと思いますよ、だけれども、先生の数もふえて、クラスもふえて、ふえ過ぎても何か問題ありますけれども、クラスあるんやなど。さっき言うた地域に密着しているということで、幼・小・中と言いましたね、幼・小の関係ってすごく関係密接に話し合えてきているのかなどうかなと思って。以前、僕、私立の幼稚園の園長をしたことあるんですよ。そうすると、私立の幼稚園ってほとんど小学校とはつながりができないんですよ。その辺、だから僕さっき話、さらにこれ発展していったら、幼稚園と小学校の先生がすごく交流するというか、ということでやっぱり地域の幼稚園

というか、それがすごく大事なのかなど。それは、今はどうなっているんですか。

○大方委員長 校長先生。

○西條委員 ことしから教育委員会の新教育課程推進事業という形で、より積極的に小、中、幼稚園も含めて、先生方も含めてかかわっていけという方針が出まして、それに基づいて今、小・中がやっていて、もうじき幼稚園もやっていくという形で徐々には進んできています。

何回か遊びに、昔遊びとか、また幼稚園、うちの運動会に参加してくれたりとかいう、そういう形はあるんですけれども、今よりもっと密接にという形で動きつつあるというのが状態です。

○ト田委員 そうなると、基本は中学校区単位がかなり生かされているということですか。それとも小学校は中学校区をまたいでいるところもあるんですか。

○西條委員 今度出されたのは、何となく中学校区で小学校も含めて集まってやっという形のもので。ただ、中身でいうと、やっぱり近さというのは大きいですね。近いところと動いていこうみたいな、現実的には、これがありますね。

○菊野委員 校門と幼稚園との門が近いと交流はあるけれども、そこに何か……、ある奈良の幼稚園なんですけれども、小学校に門をつくって、幼稚園に近いほう、それで全然違うようになってきましたしね。

○大方委員長 行きやすくなりますよね。

○菊野委員 だから、そういうのがやっぱり今度、逆に幼稚園の子どもを引っ張っていくのにつながっていくのかなと思ったり、いろんな仕方がある。だから、これ通して、そういうことも考えていくのかなと思ったりするんですけれども。

○西條委員 もっともつなげていかなあかんと思いますね、子ども、先生も含めて。

○菊野委員 はい。そうすると幼稚園の教育も、小学校の教育も変わっていくと思いますよね。

○大方委員長 文部省も、先生もおっしゃっていた、さっき特別支援のしんどい子がふえればふえるほど、やっぱり幼・小・中という縦の流れを継続的に校区としてやっていくようなイメージがないと、なかなかしんどくて、連携がやっぱりとりにくいところがあるでしょうね。

今、旧課程のことをかなり、接続キーのことをやっぱり言われていますから、そういう面では、校区というのは一つの考え方としては……

○菊野委員 あるかもしれませんね。

○大方委員長 はい。幼・小の連携、6番とかね。

○菊野委員 公立幼稚園のよさみたいなのをするときには、その辺が……。

○大方委員長 6番、そうそう、この8番、6、8というのは一つの基準に。

○ト田委員 公立幼稚園の魅力アップということも。

○大方委員長 やっぱ公立に小学校も近いとか、校区一緒やとか。

○中谷委員 やっぱ小学校に行くので、私立から地域の市立幼稚園に変わってこられた方もおられますしね、現に。そういうのも本当に地域に根差した幼稚園と小学校の連携も。

○西條委員 先ほどありましたような、再編してこだけようになったという、ようになるのがなかったら、本当にマイナスばかりになったら。

○大方委員長 ちょっとこの会、嫌ですから。ここにいること自体が何かすごく嫌というか、保護者の方も特にしんどくなるので。だから再編して元気になったぞみたいな。

○中谷委員 子育て新システムのことも見据えて、やっぱり3歳児保育のことも入れながら考えていていただいたら、公立幼稚園の活性化ということにもなると思う。それが保護者のニーズやし、子どもの教育のことにプラスになると思いますので。

○大方委員長 新システムも3、4、5でくくっていますからね。

○中谷委員 はい、そうですね。

○大方委員長 そのタイミングの問題で、再来年の話やから。

○中谷委員 でも先行してもいいんじゃないですかね。高石市が

○大方委員長 そのところ辺が難しいですね。過渡期がどうなるのか。内閣の動きもようわからんところあるし。

校区のこととか、幼・小連携の辺が一つの教育的配慮として、やっぱり複数学級あったらいいんでしょうけれども、何か元気になったという、公立が目立つようになってほしいですね。再編してより、少なくなって、子ども少ないと、何かからんとした感じになってしまうので、広いだけにね、公立広いだけに。再編することで子どもがふえたように何か活気があれば。

○菊野委員 うん、元気になりたいですね。

○大方委員長 元気になったなみたいな感じでね。

○菊野委員 再編でね、そうでないと。

○大方委員長 みんな公立に行って、それで充足できるぐらいになれば、より好ましいと思いますけれども。

○ト田委員 よろしいですか。

○大方委員長 はい、どうぞ。

○ト田委員 そういう意味でいえば、ここの議論が、今おられる公立の幼稚園の保護者の方と

というのが、そのまま続けて公立幼稚園を選び続けてもらうというのが前提としてあると思うんです。同時に、そこだけの議論にしてしまっただけで人数のことを考えてしまい過ぎると、この人数で、じゃ割ってどうなのかという議論にしてしまうと、実は公立幼稚園に新たないろんな人が入ってくるということを、どうも想定していない話になっている可能性があるんですね。それを考えてしまうと、やっぱり意味がない。ただ、だからといって、いわゆる私立的なという言い方がいいのかどうかわからないんですけれども、そういうほうへ移行するというのを私はいとも思わない。公立には公立の役割が恐らくあると思うので。

ただ、その中で、例えばニーズの問題ということでは、3歳児のニーズということでは言われていましたけれども、預かりのニーズというのは、前回お話伺っていたら、余り、今の保護者の方の中には余り高くないというのをおっしゃられていて、それもそうだと思うんですね。そこが広がったときに、じゃ、そういうものだと思って来られているから、そこは納得されたりもするんだけど、少し違う層の形になったときに、もしかしたらその可能性も出てくるわけですよね。それであれば、よりいい形で、特に新システムのことを考えると、そのことは、もうどこかで見据えていかないといけないかなというところも、ちょっと含んでおく必要もあるのかなと。

○大方委員長 新システムは3歳児も入れるのと、預かりというか、両方なので、両方セットか、両方をちょっと様子見るとみたいな形じゃないと、片一方というのはなかなか難しい。

○中谷委員 その点で訂正なんですけれども、ここに次の予定で、通園バスと預かり保育と3歳児保育のことを議論するというふうな予定になっています。それで、園長会でそういうアンケートを一回とってみようということになって、3歳児保育必要と思うかとか、預かり保育はどうかとか、通園バスは必要かとか、その3点に限り、でもそうやって出してしまうと、預かり保育をしてもらえるのかと。

○大方委員長 期待がね。

○中谷委員 それまでは、3歳児の保育のことで保護者がずっと私たちに意見を寄せてくださったんですけれども、3項目になると、ああ、預かり保育もあるんやと思って、してほしいというふうな希望は正直ありました。やっぱり、それは保護者ニーズということ、今まで私たちが目を向けてなかったということで、ちょっと反省はしたんですけれども、いろいろちょっとお勤めに行きたいとか、言われている方もいらっしゃったので、やっぱりそういうふうなこともあるんだと、社会の流れなんだなと思いました。

○大方委員長 やっぱり経済的なことがね、それこそ、全然うれしくないけれども、そういう

要望は、幼稚園には入れたいという人はすごく強くて、保育園じゃなくて幼稚園に入れたいという潜在的な、ちょっとパートに行きたいとかいう方も、また預けるところないから、参観日に行くときだけちょこっと見てくれたらいいなというような、ずっとという人は保育園行きま  
すから。時には預けたいという要望はあるということですよね。

それで、これ、卜田先生がおっしゃっていたので、教育委員会出してくださっているの  
で、もう時間も迫ってきたので、そろそろきょうは終わりにしたいんですけども、民間さんは  
これを見る限り、限りなく6時までやっているという、ただしお金も取ってはるので、その  
辺のところもただではないので、お金払ってまで預けるといったときに、公立来られている  
方がどれだけ利用があるかは、また別の問題だと思いますけれども。近隣の市町村は、こ  
れ見る限り、余りやっていない、泉大津だけがやっているのか。泉大津さんがやって、あ  
と泉南ですかね。ぐらいですかね。あとは余りやっていないと。岸和田は夏休みやっ  
ているのか。岸和田、泉南は夏休み、冬休みも預かっているということです。泉大津も夏、  
冬、春、ずっと預かりありということは、ずっとオールシーズン幼稚園がオープンにな  
っている状態で預けている方はとくかも知れませんね。

今度、新システムがこんな感じで出てくるんですよ、いや応なく。国として出てくるの  
で、このままいけば再来年の話なので、その辺のところ、これはやって、これはとかい  
うのはなかなか難しいかもしれない。3歳児保育は絶対必要なので、先生おっしゃる  
ようにね。それはもう実現性高いと思います。別にここで今決める必要はないんですけ  
れども。

ということで、1時間ぐらいと  
思っていたんですけども、いろいろご意見をいただきながら、一番盛り上がったのは  
幼・小連携とか、校区の教育課程だとかいうことが一番、イメージと  
したら皆さんの意識にもあるのかなど。あと、できるだけ前向きに、せ  
っかく再編するのならばプラスで、公立幼稚園が公立幼稚園らしく活  
気が出てきたぞと、元気になったぞという、やっぱりそういう客観  
的にも見ても、さすがベテラン先生やというのが、より子どもが  
いることで、先生方の力量を発揮していただけるような感じ  
なれば。

○菊野委員 1足す1は2じゃなくて、1足す1は3になるような形の、  
そういう再編があるべきやと思いますけれども。その保育の1かなんか、  
まだわからないけれども。

○大方委員長 保護者の方、誤解しないで、公立をなくそうという  
会、違いますよ。公立はいいとわかっているんです。わかっている  
んだけれども、子どもがだんだんしょんぼりしょんぼりになって  
いるので、より活気をするという意味で。

それと、校長先生さっきおっしゃった子どもの数の問題も、  
やっぱりある程度元気になるに

は、過疎地帯なら別ですけれどもね、ある程度町なかの場合は、やっぱり小学校に行っても、中学に行っても、ある程度元気さはいるかなという中での会やと思っていますので、十分熟考されずにここへ来ていただいて非常に申しわけないです。私が言うても、これ教育委員会の説明不足やと思うんですけれども、私、全然関係ないんですけれども、そこは。申しわけなかったなど、かわりに謝っておきますけれども。

だから、きょうは、もうちょっと進めるかと思いましたがけれども、何か気持ち的にも、まだあれやと思うので、一たん、きょうはこれで終わりにして、次のときはそういうお気持ちで、懲りずに、せっかく、ちょっと運命共同体ですしね、この5人は。みんな痛み分けしないと。来ていただけたら思います。

ただ、この会議のことは、一応きょうは非公開なので非公開のつもりで、私たちも保護者がこう言うたとか言いませんし、それなので、きょうのことはちょっと、それぞれ思いを言った会という形であればいいのかなと。次回のときは、その3歳児とかに進むんじゃないかと、もう一回、ちょっときょうのことを整理して、皆様そのつもりで、もう一回この資料を読み込んでいただいて、再編するビジョンを立てるときに、ト田先生おっしゃったように、どういう形で公立幼稚園が活性化していくかということ、もう一度資料を読んでいただけたらありがたいと思いますので、特に異論がなければ、次回に引き続き継続審議という形にさせていただきたいと思いますが、事務局さんよろしゅうございますか。

○事務局 はい。

○大方委員長 すみません、何も決まらなかったですが、申しわけないです。やっぱり、いろいろ言っていたくのも大事だと思いますので、無理して進めたくないです。

ということで、すみません。それでは、以上をもちまして、ちょっと予定をオーバーしておりますが、第2回高石市立幼稚園再編等検討委員会をこれで終わりたいと思います。

どうもご協力ありがとうございました。次回またよろしく願いいたします。